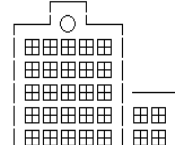


信州大学 物理 同窓会 文理学部 理 学 部 会 報

- 信州大学物理同窓会会報 0075 号 (2020-2021 年冬号) SUPAA BULLETIN No. 75 ●
- 2020 年 12 月 28 日発行 ●
- 発行所・信州大学物理同窓会事務局 (<http://www.supaa.com/>)
- 〒390-8621 松本市旭 3-1-1 信州大学理学部物理教室内
- 「旧文理学部物理学専攻」+「理学部物理学科」「理学部物理科学科」「理学部理学科物理学コース」のOB・OG&学生と教職員の会 ■
- Facebook 信大物理 (<https://www.facebook.com/ShinshuPhys>)



はじめに

理学部では初めて「学術系クラウドファンディング」を活用して広く民間からの研究資金の支援要請を行った。物理の竹下先生による『AI を活用して「質量が生まれる謎」に迫る!』を含む3つの案件とも目標額が達成された。科研費との関係からいろいろ議論はあったはずだが、今後はこうした手法が取り入れられよう。当会もML(約400人)に呼びかけるなど応援に参加した。

名物教授、吉江寛先生が12月初頭に逝かれた。ご自宅でがんと闘病生活だった。ご冥福を祈る。今号で急遽「追悼特集」を企画した。寄稿一番手の上野信雄君は先生の赴任と同じ1967年入学の理学2Sだ。現在、日本学術振興会の仕事でロンドン駐在。「欧米の国によっては、同窓会が大学の執行部のお尻をたたっている」と同窓会の存在感の高まりを伝えてくれた。(高)

=====《巻頭のこの1枚》霧氷輝く峰の原=====



[I • N • D • E • X]

- _____



2020.11.30

===
(^^)
o-o-))

【 本誌 46 号(2013 年冬号)から「松本平タウン情報」よりの
転載によって始まった先生のコラムも最終回となりました。
7 年という長きに渡って執筆いただき、誠にありがとうございます
ございました。学びの師であるとともに人生のお手本として
先生からたくさんの薫陶を受けることができました。最後
は、ご趣味の俳句で締めくくっていただきました。 】



理学部の定年を前にして、退職後の日常生活の糧にと俳句を始めてから 30 年。
長年の駄句の中から印象に残る二句をご披露しよう。

濃竜胆思想減びることありや （一九九一年）

二十世紀最大の思想界の出来事のひとつは、一九一七年のロシア革命に続くソビエト社会主義共和国連邦（ソ連）の成立と、一九九一年一二月のソ連邦崩壊だったのではないだろうか。第二次大戦後の世界を支配してきた米国とソ連の対立という政治体制を一変させたこの事件は、歴史には門外漢の私にとって、一九四五年の日本の敗戦と同じくらい大きな衝撃であった。

こんな思いから私は親友の歴史学者に電話した。「ソ連が崩壊してあなた方ロシア史専門の研究者は今後どうするの？」この愚かな質問に彼は平然として答えた。「宮地さん、ソ連が無くなったからってどういうことないですよ。政治が変わったと言っても思想が減びたわけではないし、まして歴史がなくなってしまうものではありません」。私は棍棒で頭をぶんぐられた気持ちであった。

考えて見ると物理学でも同じことである。二〇世紀の初頭、アインシュタインの相対性理論が提唱され、続いて量子の世界の新しい法則が発見されたにしても、それまでのニュートン力学の思想はびくともせず、ハレー彗星は予想通りの時刻に正確に地球に現れる。以来私は歴史学者には頭が上がらない。

今日あたり春の隣に居るらしき （二〇一七年）

信州の春が遅いのは例年のことだが、この年は特に一月末から寒い日が続いていた。それでも東京の子供たちから梅の便りが寄せられてくると、彩りの乏しい我が家の庭にも何となく木の芽の膨らみを感じられるようになる。そんなある日、ふと気が付くと日差しの強さにそれまでの寒さが和らいで、体に張り付いていた冬の固い空気に代わってそこはかとなない春の気配が漂い始める。年を取るとなにごとにもものぐさになり自分から身を動かすことが少なくなるのであるが、お隣

の白木蓮の銀鼠色の蕾が堀越しに顔をのぞかせているのが目に入ると、普段は訪れる人の少ない一人暮らしの私に春のほうから身を寄せてきてくれたのだといううれしい思いに、つつい顔がほころびる。こまくさ句会の締め切りに追われる頭に浮かんだのが掲句である。

この句に対して「岳」誌上で主宰宮坂静生先生から以下のようなお言葉を賜った。



▲宮地先生は数々の本を出版されたが、これは2冊の随筆集『星の時間』(右/1996年刊)と『春夏秋冬』(左/2000年刊)。先生が歩んでこられた物理学探求の道と人生の遍歴そして教養深い思考について知ることができます

「宮地虚子誕生。悠々と九十歳を超えられた気持ちの余裕がないと、読み手をほっとさせるこんな名句は詠めない。寒い日が続き、とある一日、こんな日がある。春待つ心は最高の詩情である。」(以上いずれも俳句誌「岳」より転載。)

同窓会の皆さん、長らくお世話になりました。心から御礼申し上げます。

《2020年ノーベル物理学賞は「ブラックホールの証明・観測」で成果をあげた3氏が受賞するなど、物理学界にも様々な出来事があった。丹羽流に総括すると……》

私的・物理界の4大事件 2020

THE MOST IMPORTANT NEWS OF THE YEAR 2020

丹羽 公雄 (文理学部自然科学科物理専攻第17回生 名古屋大学名誉教授/岐阜県御嵩町在住)



物理学研究に携わった筆者に気になった今年のニュースは、
(1) 仁科記念賞が岐阜大学の仲澤和馬氏に贈られた
(2) 小柴昌俊先生が亡くなられた
(3) はやぶさ2が小惑星から帰還した
(4) 日本学術会議会員6名の任命拒否
となる。ひとつひとつについて、書いていこう。

【1】仁科記念賞が岐阜大学の仲澤和馬氏に

今年の仁科記念賞はハイパー核の研究で岐阜大学の仲澤和馬氏に。ハイパー核は

物理を学んだ者でも馴染みが少ないので少し解説する。

原子核は中性子と陽子が硬く結合した超高密度な塊であることをチャドイックが中性子を発見（1932 年）して確定し、同時に新たな疑問を生んだ。きわめて近距離の陽子・陽子間の電氣的反発に打ち勝つ力は電気力以外の未知の力（今日強い力と呼ぶ）を必要としたからである。この未知の力の解明はイワネンコ・タムが Dirac の場（電子・陽電子）を使って説明（1933 年）したが力が弱かった。

翌年湯川は同じ場の考えで電子に換えて「電子の 250 倍程度の粒子」を仮定した中間子場で十分な強さの力になることを示した。 たまたま 1937 年にアンダーソンは強い磁場の中で霧箱を働かせて宇宙線粒子の質量測定に成功して、宇宙線粒子に電子質量の 200 倍の粒子を得た。「この粒子は湯川が仮定した粒子だ」と誤解され米国で湯川理論が注目された。しかし宇宙線で見つかった粒子は陽子や中性子との相互作用が極めて弱く湯川の仮定した粒子ではないことが明らかになった。宇宙線で見つかった電子の 200 倍ほどの粒子は謎のままだった。

戦後（1947 年）になって英国ブリストル大学のパウエル他が写真乳剤を改良した原子核乾板を使って新たに電子の 250 倍ほどの質量の短寿命で電子の質量の 200 倍ほどの粒子に崩壊する粒子を発見し、更にこの粒子が電子へと崩壊することを検出した。この新たに見つかった 2 つの粒子は π 粒子、 μ 粒子と呼ばれ、坂田たちの二中間子論（1942 年）による解析が成功して湯川理論の正しさが証明された。

1949 年に湯川、1950 年にセシル・パウエルにノーベル賞が与えられた。以後、続々と新しく素粒子が発見され、今日では数百種類の素粒子が認知され、 μ 粒子の解釈は 1970 年代にクォーク・レプトン素粒子標準理論の中に完結した。

1950 年代に宇宙線で破壊された原子核の破片の中から、飛程が数ミクロンで崩壊する現象が原子核乳剤の中に顕微鏡観察で見つかり、崩壊した核の破片は Λ 粒子と中性子と陽子とからなる原子核と確認されてハイパー核と呼ばれた。ハイパー核は中性子が Λ と置き換わった原子核とされ、いくつか見つかったがハイパー核の研究は大きな流れにならず、1960 年代にはヨーロッパ・米国ではハイパー核研究は殆ど行われなくなった。

1980 年代に原子核乾板の顕微鏡解析手法を大幅に改善した名古屋大学は京都大学のグループと共同して、ハイパー核も研究ターゲットにした。KEK の加速器が造る K^- 粒子ビームを原子核乳剤に照射し、乳剤との衝突で



▲仲澤和馬氏 名古屋大学大学院理学研究科博士後期課程修了理学博士（名古屋大学）現在は岐阜大学工学研究科（博士後期）教授（シニア教授）

作られる 2 次粒子の中に K (+) 粒子を伴う事象を選別してその反応点を顕微鏡によって観察した。

1995 年に Λ を 2 個含む原子核、ダブルハイパー核の存在を明らかにした。その後、岐阜大の仲澤和馬は原子核乾板の顕微鏡解析技術をさらに発展させて、ダブルハイパー核を複数検出して核内での Λ 粒子間の力を解明し、2 個ストレンジネスを持つグザイ粒子が核に取り込まれるプロセスも検出した。すばらしい成果であり、今年度の仁科記念賞が与えられた。

パルサーが中性子星と確認され、ブラックホールと中性子星の合体に伴う重力波放射が観測されるなどの研究が進み超高密度物質の基礎知識が重要になってきた。理論上の想定に過ぎなかったハイペロン星、中性子、陽子、 Λ を構成要素にする超高密度核物質が注目されるようになった。ハイペロン星に降り注ぐ隕石は Λ 粒子が崩壊してパイゼロによる 65 MeV ガンマー線のバーストを生むだろう。

もし Λ を構成子に持つ核物質で安定した核物質が存在し、その質量がウランの何倍もあり、星雲（恒星間空間）に存在していれば、1 立方メートルあたり 1 個程度の密度で存在する陽子（水素）が宇宙線の飛行には障害とならないように、重く安定したハイパー物質はダークマターの候補にもなりうるなど夢は広がる。

【2】小柴昌俊先生が亡くなりました

筆者は小柴先生の教えを受けたので少し思い出話を記す。1972 年から名大理学部の日生先生の研究室で原子核乾板を使って素粒子の多重発生現象（運動エネルギーの物質への転化）の研究に参加して 1971 年に日生先生が発見した（今日ではチャーム粒子と呼ぶ）新粒子候補事象を捕らえ、物理学会での発表のチャンスを得て日生先生の付き添い付きで発表した。

10 分の講演が終わると、最前列の見知らぬ参加者が「K⁰ 粒子の崩壊かそれとも中性粒子衝突ではないのか？」と鋭く突っ込む質問だった。崩壊点の顕微鏡観察による詳細を答え、席に戻ると日生先生から質問者は東大の小柴先生と教えられた。休憩室でお茶を飲んでいたら、とんとんと背をたたく人があり、振り返るとあの質問者、小柴先生だ。「きみの発表オモシロカッタ、帰りに名大に寄るから、見せてくれ」と言われた。

小柴先生は東大の院に進めなかったが朝永の推薦書を手にも米国プリンストン大学で学び学位取得後、シカゴ大学が進めていた国際共同研究「大気球による原子核乾板で宇宙線が引き起こす超高エネルギー素粒子反応解明」のプロジェクトに参加され、その乾板を引っさげて東大に戻られた。顕微鏡を使う解析の困難から原子核乾

板にみきりをつけて、折戸、戸塚らの若手を引き連れて光検出器PMTを使った実験研究に転向された。当時最高エネルギー加速器であったソ連のセルプコフの70GeVを使う計画を立案されたが中止して、ドイツのDAS Yの加速器で素粒子多重発生源「ジェット現象」の解析にPMTと鉛ガラス検出器を大量に使って挑まれた。その後、小柴先生のグループは陽子崩壊の検出を狙ったが、3000トンの純水を透過する光検出器ではできなかった。

しかしカミオカンデの狙いを太陽ニュートリノの観測に変えられた。太陽から来るであろう数MeVのニュートリノが水の電子を跳ね飛ばし、その電子が放出する光が捕えられるよう3000トンの純水に含まれる放射性元素の除去と光検出器PMTの改造にまい進された。陽子崩壊のGeVに比べ、太陽ニュートリノのエネルギーは数MeV、検出感度をほぼ100倍が必要である。3000トンの純水に含まれる自然放射能を徹底して除去して太陽方向からのニュートリノが識別できるようになり、太陽ニュートリノ強度を確認することに成功。

太陽ニュートリノは1970年代に米国のデービスが測定したデータが出ていたが、信用されていなかった。デービスとまったく異なる方式で太陽ニュートリノの強度を得たことでデービスの測定とカミオカンデの測定が信用された。太陽エネルギーが陽子の核融合で生み出されている証拠を実験的に検証したとして小柴先生とデービスに2002年にノーベル賞が与えられた。

なおマゼラン星雲内で1987年にたまたま起きた超新星爆発のニュートリノの観測はおまけだと受賞理由に書かれている。太陽ニュートリノ強度の観測値は標準的な太陽モデルが予想する強度の半分ほどでしかなかった。

1960年代にポンテコルボ、坂田他によってニュートリノ振動が予言されていた。質量ゼロとされるニュートリノに質量があれば現れるとする理論である。実験研究は始まっていなかったが、カミオカンデの研究テーマにニュートリノ振動が加わった。小柴先生の弟子の戸塚先生が進めるSKはニュートリノ振動の観測に狙いを付けていて小柴先生は強烈にプッシュされていた。

筆者は米国FNALの加速器でタウニュートリノ検出実験、CERNでのニュートリノ



▲小柴昌俊氏 1926年豊橋市生まれ。2020年11月12日逝去、享年94。理学博士（東京大学・1967年）。東京大学理学部教授、東京大学高エネルギー物理学実験施設施設長、2002年にはノーベル物理学賞を受賞、東京大学特別荣誉教授・名誉教授など。

振動実験を進めた。小柴先生とは FNAL、CERN のカフェテリアでよく出会った。その度に色々アドバイスを受けた。 μ ニュートリノから τ ニュートリノへの振動を乾板でなら τ ニュートリノを事象毎に判別できることなど語り合った。

【3】はやぶさ 2 が小惑星から帰還した

帰還した玉手箱の開封と解析を待っている！ 世界で初めての完璧な回収！ 生命の起源を解く！ などとマスコミは賑やかだが、宇宙開発技術で世界のトップに立った？ 同類の技術で 51 年前にアメリカはアポロを成功させている。今回の重力のきわめて小さい惑星への軟着陸とはいえ、日本もこの分野で世界のトップに近ずいた。学術的には小惑星の成り立ちは小惑星と同じなりたちの地球に降り注ぐ隕石で調べられ、日本は南極の雪原に散らばる隕石を沢山収集していてこの分野の研究は活発だ。

地上に設置された光学望遠鏡によるスペクトル解析やいろいろな衛星観察で太陽系・銀河系、大宇宙の構造、太陽が吐き出す太陽風の解析から太陽の元素構成比も解明され、宇宙空間に存在する有機物の存在も判ってきていて、はやぶさ 2 に地球物理学者の興味はそれほど強くない。

小惑星で採集したサンプルの実験室での解析で有機物が検出できれば生命の起源解明に一石を投げれるかもしれない。はやぶさ 2 には 300 億円ほど使われたが情報収集衛星（スパイ衛星）に比べたら一桁安いこともマスコミは報じてほしい。他方、中国は月面着陸とキログラムのサンプル採取を進めている。月面に観測所を建設する計画の一環らしい、地上で使っているような観測機器を月面に設置すれば画期的なことになるう。



▲小惑星探査機「はやぶさ 2」が採取した小惑星 Ryugu（リュウグウ）のサンプルは約 5.4 グラム（JAXA ウェブサイトより）

【4】日本学術会議会員 6 名の任命拒否問題

今年、菅内閣は推薦された新委員のうちの人文系 6 名の任命を拒否した。これは、理工系とも無縁の出来事ではない。

戦後、科学者が戦争に専門知識を使って協力したことを反省し日本学術会議がつくられた。東条英機の要請を受けて仁科芳雄、湯川他は原爆開発、朝永は軍用レーダの開発に協力した。日本の原爆開発はきわめて幼稚なレベルで終わったが、世界

ではヒトラーの原爆開発に対抗したアインシュタイン他がアメリカ政府に協力して原爆は開発された。完成した原爆はアインシュタインらの反対を無視して広島・長崎に使われ今に続く悲惨な災いを残した。

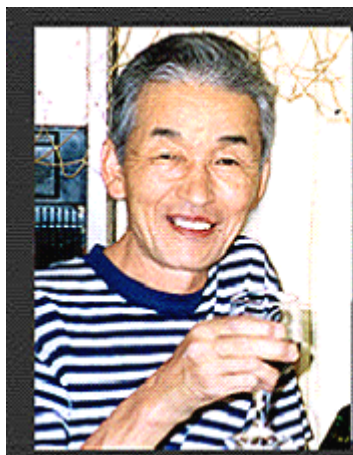
戦後原爆開発の反省からラッセル・アインシュタイン宣言、世界平和会議の活動がなされた。パイ中間子発見でノーベル賞を受けたパウエル、湯川、坂田昌一他は世界平和会議の活動を行った。

1949年に日本学術会議が発足し、軍事研究に反対を宣言した。大学独立法人化以後、大学の経営に困難が増してきて科学研究費を補う研究費を求める研究者も多くなか、防衛省が公募する研究費に引かれる研究者も出ている。

《 信州大学理学部物理科の開設2年目から35年間、研究と学生育成に尽くされました 》

さよなら 吉江寛 先生 追悼特集①

2002年に退官されてからは、故郷の辰野町で過ごされていた吉江先生が12月6日に旅立たれた。先生縁(ゆかり)の卒業生から、生前を懐かしむ追悼文をいただきました。合掌。



吉江 寛 先生

1937年 長野県辰野町に生まれる。
松本工業高等学校電気科を卒業。
1961年 金沢大学理学部物理学科を卒業。
その後、同大学院修士課程を修了。
1965年 長野県池田工業高校で2年間教職。
1967年 4月から、信州大学理学部助手。
1986年 信州大学理学部助教授理学博士。
1996年 信州大学理学部教授理学博士。
専門は磁性物理学。
2000年 青少年のための科学の祭典事務局長。
2002年 信州大学理学部教授をご退官。
享年84

■ 吉江寛先生を偲ぶ ■

上野 信雄（理学2S/ 統計研究室 日本学術振興会・ロンドン研究連絡センター長
千葉大学・名誉教授）

吉江寛先生が2020年12月6日に逝去された。84歳であった。ご専門は磁性物理学で、教育では分け隔て無く学生と歩き、そして彼らを教育した先生である。

先生は、1937年（昭和12年）に長野県辰野町にお生まれになり、松本工業高等学校を卒業し2年間の受験勉強を経て、1961年（昭和36年）に金沢大学理学部物



理学科を卒業[※1]、引き続き同大学院修士課程を修了された。1965年（昭和40年）4月から長野県池田工業高校で2年間、物理の教鞭を執られた後、1967年（昭和42年）4月に信州大学理学部物理学科の助手に着任され、1978年（昭和53年）理学博士、1986年（昭和61年）助教授、1996年（平成8年）教授に就任された後、2002年（平成14年）に定年退官された。

先生が物理学科に着任された年は理学部発足の翌年で、2Sと同期である。このころは、文理学部の校舎と旭町キャンパスの新教養部棟・旧陸軍の木造の建物が利用されていた。物理学科の学生（1S、2S）の専門教育では、後者の木造棟が利用された。まだ日本の大学は貧しく、大学としての環境を自力で整えながら英米欧の大学をめざして研究と教育を行うのであるから、特に実験分野は大変だっただろう。ちなみに、時代の違いを知るために大学（含短大）進学率を比べると、1957年（吉江先生受験の年）9%、1967年（2S受験の年）12.9%、2019年（昨年の受験）58.1%である。吉江先生の時代は10%未満で、貧しい日本の経済状況を反映している。



▲2019年2月7日、辰野の自宅における写真。上は先生が描かれた油絵で、お気に入り。下は先生ご夫妻の仲睦まじいお写真（撮影：高藤惇・2S）

私が吉江先生と近しくなったきっかけは、木下君（2S）らと、先生にお願いして2年生の秋の大学祭への出し物（雨滴の速度測定器）を製作するために統計研の工作室を利用させていただいたことにあった。先生は我々が3年生に進級する前に、使用可能になった新棟に引っ越しされた。さらに自分が集中できる時間を確保するために南松本の県営住宅から辰野の実家に移られ、布団とアカイのラジカセを新しい教官研究室に持ち込み、週末以外は泊まり込む生活を始められた。朝になると研究室からラ・メール（シャンソン）が聞こえていた。この時期、私は下宿で勉強することが難しく、先生から新棟の暗室の前室の机を借りて夜遅く勉強する時間を確保した。3年生のこのような時期に、先生がスリクターの「核磁気共鳴の原理」の本を読み始められることになり、お誘いを受けて一緒に読む事になった。毎週一回、夜の9時

頃から 11 時すぎまで向かい合って読んだが、宮地先生の量子力学の講義が途中で「共鳴吸収」の意味を正確に捉えることは自分で摂動論の勉強をするまでは困難であった。高校とは異なり大学では専門科目は難しいことが多く、山道を一步ずつ登るような努力では歯が立たず、ときには岩壁を両手両足を使って這い上がるような必死の努力が必要であることもこのときに分かりかけてきた。大学院以降の新しい挑戦では、その経験が役立った。

当時、吉江先生は、めがねをかけておられ、ダンディでスマートな先生であった。お酒はビールをグラスに一杯のむのが精一杯で、たばこもやらない先生だったが、私たちが永井先生等と研究室で飲む席にはよく顔を出された。吉江教官室につながった実験室の書庫には、紙（簡易ノート）がぶら下げられてあり、詩や散文など、思いついたことを自由に書き留めるようになっていた。吉江先生を含め皆が若く多感な青年時代で、先生も私たちも沢山書きとめた。この頃から吉江先生は、リズムのある、流れるような詩や文を書かれていた。

4 年生の卒業研究の時は、吉江先生が文部省の内地研究員として東北大学理学部に行かれ、さみしくなった。東北大学の大学院に合格したので、仙台の下宿探しは先生のお世話になった。

私たちが卒業してからしばらくすると、先生はお酒を飲むようになっておられ、またずっと後には人並み以上に楽しまれるようになった。円形脱毛になるほど教職員組合の世話をされていたので、お酒も必要だったに違いない。

私は東北大学の大学院に進学することになったが、結局、東北大学では先生と私は行き違いになった。大学院では有機半導体の光電子分光を始めることになった。まだ日本では行われていなかったこの研究への挑戦は、何を勉強したらよいか分からず、関連のインフラ設備に加え予算の裏付けもほとんど無い状況で大変だった。院生がたった一人では無理だ、という声も遠くから聞こえてきたが、非観的になることはなく、むしろ誰もやっていないことに挑戦する喜びがあった。松本での様々な経験のおかげである。

吉江先生は、“美”の感覚にあふれた人である。長女のために買ったピアノを自分でも楽しんでいた。卒業後、先生宅を訪問したとき、即興で作曲したという曲を先生のピアノ演奏で聞いた。「音」と「指の動き」に、こういう人もいるのかと先生の隠れた才能にビックリした。先生は、また、絵をよくされた（記事中の写真を参照）。油絵を一枚送っていただいた。抽象画である。「夕焼けの雲」あるいは「水の緩やかな流れの一瞬」のような光の色のうねりと静寂な雰囲気が見事で、私の家の玄関の壁を飾っている。

加えて、先生は、楽しさや優しさのあふれる文章を書く達人でもある。先生の「棒

球タイムズ」に連載された「お父さん、プラハへ行く」は、好評のため後で出版された（学術図書出版社）。「棒球タイムズ」は1984年から1990年まで合計317号が発刊された。「棒球タイムズ」の廃刊後、月刊「お父さん」（No. 43まで）や「お父さんCup」もY新聞社（吉江新聞社）から発刊された[※2]。これらには、旅行記のほかにも、少年時代のわんぱくぶりや、ご家族、愛犬、愛車の話題など、先生のあやしくもある個人情報満載で、読むと思わず微笑んでしまう。最近、全号が奥様から物理同窓会に届いたと聞いた。

一昨年、先生のご健康が悪化したとき、先生の信州大学での貴重な経験を記録することを計画した。すでに自筆は困難な状況で、奥様に、聞き取りによって文章化していただき、昨年、二回にわたって同窓会報に掲載した[※3]。先生ご自身による文章ではないが先生の姿を窺い知る事ができる。

先生は、東北大学の後、1982年に京都大学・工学部にも学術振興会の流動研究員として滞在された。京大とはその後も20年間に渡って学生を引き連れて共同研究をつづけられた。また、1995年にはフランス国立科学研究センター/CNRS（グルノーブル）で文部省の在外特別研究員も務められている。

波瀾万丈の人生を悠々として生き、自分自身を失わなかった先生であった。そして、大学教員としての大切なことを身をもって示して逝かれた。先生が天国でどういう生活をされるのか・・・頭に浮かんだ情景に、おもわず頬がゆるんだ。吉江寛先生の御冥福を心よりお祈り申し上げます。

【お礼】

吉江先生の最近の写真、絵の写真がロンドンの手元になく、同窓会報の編集長である高藤君(2S)に準備いただいた。また、会計担当で物理学コースの准教授でもある志水君(92SA)に信州大学での吉江先生に関する資料を送っていただいた。両氏に感謝いたします。

【参考】

- ※1：先生が松本工業高校を卒業後、就職するのをやめて大学や大学院に進学した経緯が※3の資料に書かれている。
- ※2：物理同窓会会報 0068号(2019年春号)、<http://www.supaa.com/kaiho/0068.pdf>
「お父さん(寛)のはなし< 前編 >」、吉江 寛 /吉江 かなめ
物理同窓会会報 0069号 (2019年夏号)、<http://www.supaa.com/kaiho/0069.pdf>
「お父さん(寛)のはなし< 後編 >」、吉江 寛 /吉江 かなめ
- ※3：「市民タイムズ」（平成13年12月27日号）の「新世紀展望-まつもと100年」の最終記事（インタビュー形式）に先生による“ことばが”ある[「新世紀展望-まつもと100年」は『松本・安曇野 21世紀への伝言』として出版されている（ほおずき書籍）]。研究関係の話題は「棒球タイムズ」等にはあまり出てこないが、研究についての考え方がある。また若いときのことが紹介されている。

■ 驚きのあまり放心状態でした ■

雲梯 隆夫（うなて たかお）（6S/統計研究室 元積水化学工業（株）堺市在住）

突然の先生の訃報、驚きと同時にしばらくは放心状態でした。
先生に贈る言葉として“ありがとうございます”しか思いつきません。



私は山登りや仕事で信州に行った帰りに、先生の家には厚かましくお伺いするので、厚かましくお伺いするのは学生時代によく招待（強引にお伺いする）して頂いた名残のためです。奥様は私の好きな鯉の甘露煮・ウナギ・信州の味を用意して頂き、先生とビールを飲みながら昔話や近況について話をするのが楽しみでした。先生に最後にお会いしたのは2018年8月、槍ヶ岳に登り土砂降りでの下山、昼前には松本に着き、先生の顔を見たいと思い突然電話をしました。先生は前立腺がんの手術後だったので車椅子で私を出迎えて頂き、元気だと言わんばかりに歩ける姿も見せてくれました。早朝のため風呂に入れなかった汗臭い私を温かく迎えてくれました、さぞかし臭かったでしょう。（私の顔写真は、先生のお宅を訪問した前日に槍のてっぺんで撮った写真です。）

先生から教えて頂いたことは、“科学を学ぶ姿勢”です。実験屋さんの先生は納得できるまで実験を繰り返し行っていたことです。先生は入学試験で、受験生の前で水面上に火の付いたろうそくを立てビーカーで被せる実験をしたそうです。火が消えると、水面の上昇が20%にならないことを説明させる問題です。多くの条件で実験し再現性を確認したとのこと。予想した実験結果と異なる時、“どう見るか？”まさしく実験屋の楽しみです。また退官後毎日血圧などの記録をされており、ある時医者から血圧が高い（？）ことを指摘されたそうです、日常の記録を示し医者を“ぎゃふん”と言わせたそうです。

先生は実験のため大学によく泊まられます。ロッカーに備蓄したラーメンなどを我々学生は無断で食べてしまうのです。先生は防衛のためラーメンを紐でくくり窓の外にぶら下げていたのです。そのラーメンをも私は頂き、紐はそのままにしておきました。先生はラーメンが下に落ちたと思い探しに行ったとのこと。

ボーナス日は学生にとって楽しみなの

です。先生に肉などを“たかる”ことが出来るからです。先生が温かく学生を受け入れて頂いたのは、先生の人柄と私は先生の前では“バカ”になることが出来たか



▲左はまだ30代の若き日の吉江先生。右は先生宅に招待して頂いた統計研卒業コンパ、右端が先生。前列左端が筆者。

らだと思っています。

夏休みには先生の部屋は卒業生・学生からのお中元や差し入れで一杯になりました。休み前、学生の出身地の名物を言う“おちゃめな面”もありました。先生との思い出が多くあったからです。

吉江先生、学問に対する姿勢は尊敬します。楽しい学生時代の思い出を作れたのは先生の人柄です。

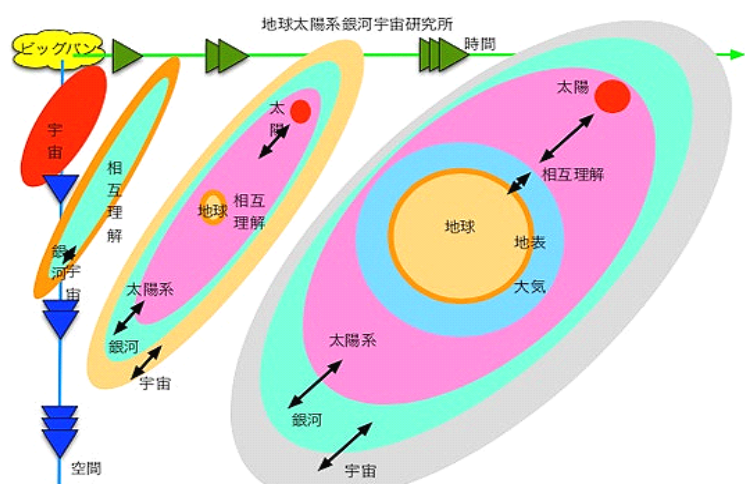
ご冥福をお祈りいたします。最後に、もう一度“ありがとうございました”

【 理学 22S の卒業生からの吉江先生についての追悼コメントはP 22 につづく】

理学部附属 “国際宇宙科学研究センター” とクラウドファンディング

【 理学部の中での研究がミクロ方向で横のつながりが乏しく、あるいは、グローバル化に乗り遅れているという反省から、提案！ 】

理学部附属国際宇宙科学研究センターは、2020 年度に発足しました。理学部で行われる自然科学の研究を押し進めるためのゆるい組織として始めました。図にあるように宇宙を構成する階層構造（地球、太陽系、銀河、宇宙）は、近年は特に細分化されて、それぞれ異なる研究分野となっています。これらの規模の違いとお互いが接する階層の接点における研究の擦り合わせを行う事により、それぞれの微細構造と大規模構造の統合的理解をすすめ、各階層でのより深い理解へ至ることを目指しています。またそれぞれの時間発展の擦り合わせを行う事により、お互いの影響を評価し、個々の研究を深めると同時に全体像への寄与を深化させ、自然を理解するという人類の願望に至ることを目標としています。その意味で理学部全部の構成員あるいは、自然科学の研究者はすべてここに集うことで達成できると考えています。（2020 年 12 月 1 日）



具体的には、以下のような研究対象を考えています

○地球・気水・生物圏科学：地球そのものとその表面とその周辺大気、生命生物が微細構造であり、これら同士と太陽とその周辺との関係が周りとの接点となります。

○宙空圏科学：地球という惑星と太陽系という宇宙空間の関係を掘り下げます。

○銀河圏科学：太陽系と天の川銀河の関係、あるいは他の銀河と宇宙全体との関係を追求します。

○宇宙圏科学：宇宙全体とその進化を追求します。



今までは、これらの各階層の掘り下げによる精緻なミクロ的研究が従来の方向性でした。すなわち対象とする研究物体の様子と成り立ちの解明、あるいは現象の因果関係、さらに時間的変化の経過の研究と将来の予測などが研究対象でした。本研究センターでは逆にマクロ方向への視点を強調し、それぞれの細部を研究し理解しつつある研究者が、これらを含むより大きな存在との関わりや物質的構造的関連を議論する方向性を助長することを目指しています。このためには、種々の研究対象を含むよりより広い研究分野に携わる人々との研究交流からより広い視野と研究対象を別の観点からみる態度や観点を導入します。非常に近い研究対象をより近づけて、さらに大きな観点から俯瞰して、新しい研究の芽や方向性を探り出すことが本センターに求められていると考えています。

このようなアイデアは、竹下が理学部の研究担当の学部長補佐や副学部長の時期に醸成された解決策です。つまり、理学部の中での研究がともすれば、ミクロ方向で横のつながりが乏しい、あるいは、グローバル化に乗り遅れているという反省を、打破したいと考えて提案しました。広い視野と、異なる分野の研究との交流で新しい観点からミクロを解決し、新しい観点の研究が生まれることを希求しています。

とはいえ、具体性に欠けるこの様な提案では、何のこともはっきりしませんし、実働が見えてきません。そこで私たち（長谷川、川出、竹下）が進める LHC 加速器における ATLAS 実験をまずその核に据えて、ここから広がりを作っていこうとして動き出しました。残念ながらコロナ騒ぎの為に、研究者の CERN への派遣などは、実現できそうもありません。国際性を標榜してプロジェクトをスタートさせたかったのですが、目に見える形に結実させるのは、今は難しい状況です。とはいえ、ATLAS 実験のもたらす膨大な知見は、宇宙の始まりに関する情報をもたらし、これを世界的英知として理解し議論することにより、新しい宇宙の描像が生まれてくるものと期待しています。ここから初めて、種々の研究の広がり、と、階層間の絡み合い関係を議論していきたいと思っています。

近々理学部の web ページトップに、国際宇宙科学研究センターのリンクが貼られます。その中では、種々の進展を「お知らせ」として更新していきます。ご期待ください。

一般市民に諸々を伝えたいという気概を奮い立たせる

お話は、少し変わって今進行中のクラウドファンディングに移ります。今回のクラウドファンディングも国際宇宙科学研究センターの活動の一環と、私は捉えて活動しています。とはいえクラウドファンディングなどという何やら金集めの手段に乗るのは、純粋科学を標榜する理学部としてどうなのかという議論もあると思います。

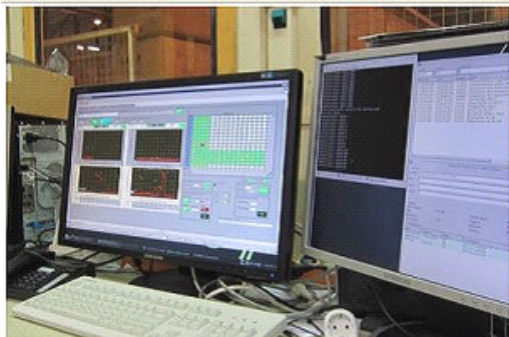
ただ時代は、「何の役に立つのか」という質問に「さあ、100年後には使えるかも」などというふざけた回答しかできない私たちのような研究者にも、一般市民にいろんなことを伝えたいという気概を奮い立たせてくれる手法の導入も本研究センターの標榜する、階層を超えて理解という点でやってみる価値があります。その一つが今回のクラウドファンディングだと思っています。運営会社（アカデミスト）は、ノウハウのない私達を巻き込んで（もちろんいくばくかの利益を要求します）学術の分野で何かをしたい研究者に、市民にわかりやすい具体的目標を設定させ、それを市井の人々と共有することで目標を達成しようとしています。その意味で今回、理学部がクラウドファンディングを始めるとの募集に応募して、実働が始まりました。

今だに市民からの寄付で何か研究に必要な装置を購入して、研究を進めることには、多少の抵抗が個人的にはあります。しかし、クラウドファンディング運営会社からの叱咤激励に対して、何もしないわけにはいきませんので、SNS を駆使してより多くの人々に、こんな研究があることを知ってもらおうと努力しています。

例えば、web page はもちろんのこと、Facebook, Twitter, instargam （TikTok はまだですが）に到るまで始めています。読むかもしれない対象者に応じた情報を提供できるかどうか、さらに寄付まで至るのかどうか、クラウドの成功の鍵らしい（運営会社）です。コロナの時代、直接語りかけることはできませんから、ネットの SNS をいかに上手く使うかが問われています。

AI = 深層学習は素粒子の世界と市民をつなぐキーワード

わたし自身は、Facebook でも Twitter でもどちらかと言うと消極的な参加者でし



■ 研究報告のお話し

素粒子物理学にAIを導入する計画は、最近盛んになっています。計算機科学、数学と一歩に隔たらないでネットワークを駆使してありますが、その一方で、今の研究環境は非常に大きく変化しているように感じられます。特に、個人のコンピュータでAIアルゴリズムを構築できる環境が整いつつあることには驚かされます。

今回の研究においても、専用のGPUを導入することで、研究室で自由にAIアルゴリズムの実行や開発、実行を円滑に構築する予定です。今回のクラウドファンディングでご支援いただいた研究費は、このGPUの増設のために使用させていただきます。

▲『AI を活用して「質量が生まれる謎」に迫る！』ためにファンディングを訴える。
academist(アカデミスト)のホームページ

た。しかし今回は、積極的に宣伝していかねばなりません。寄付を募らなければならないため広めるばかりではなく、寄付者には、リターン（お返し）というフィードバックを用意しています。ちなみに寄付は、1000円から10万円まで何段階かのレベルがあり、レベルに応じたリターンを用意しています。大学なので、金銭的なリターンは期待しないでください。事象の画像であったり、議論を個別に私と行うことができたりします。詳しくは、

<https://academist-cf.com/projects/201?lang=ja> をご覧ください。

具体的には、今回のクラウドファンディングの目的を、「AI を利用した素粒子物理学研究」に設定しました。すでに研究室の何人かの大学生や大学院生が取り組んでいます。また一般市民にも AI は言葉として広く広まっているので、素粒子の世界と市民をつなぐキーワードとしました。AI の中でも私たちが使っているのは、深層学習(Deep Learning) と呼ばれるものです。

20年ほど前にニューラルネットワークが流行った時があります。その時とは、コンピュータ能力が格段に進歩しているため、当時のニューラルネットワークでは到底実現できなかった、ノード数や、階層数を利用することができます。学生が使っている深層学習（あるいは、機械学習とも言います）ですら、100ノードを超えています。ノードとノードに接続を重みをつけて最適化問題を学習させます。組み合わせは階乗で増えるので、ノードや層を増やすと多大な計算が必要になります。

この時点では、答えがわかっている教師データを与えて、重みを動かして（人の頭の中でニューロンが経験値の積み重ねとして「重み」を変化させ、可能なかぎり正しい答えになるよう調整しているのをコンピュータ上で模しています）最適解になるように調整することを行なっています。これを学習 Learning と呼びます。

教師データは、ATLAS 実験を行うために、コンピュータシミュレーションが準備されているので、これが出力する正しい答えを教え込みます。最終的には、素粒子実験(私たちの場合は、ATLAS 実験のデータを使います) の入力データに対して事象の種類を判別させます。

そしてクラウドファンディングは皆様のおかげで成立

素粒子物理プロセスとしてヒッグス粒子とトップクォークとの結合定数の測定を選びました。質量の起源である、ヒッグス粒子は、素粒子の中で最も重いトップクォークと一番大きな結合定数を持っているからです。すでに ATLAS 実験では、従来の解析方法でヒッグス粒子とトップクォークの結合定数の測定が行われていますが、深層学習を使った私たちの方法は、別のアプローチとしてまだ意味のあるものだと考えています。

さて、深層学習では、同じような計算をなんども繰り返します。つまり、計算能力の高いことが必要です。巷では、コンピュータゲームを好きな人々の間で、GPU（グラフィカル プロセッシング ユニット）を搭載した画像処理がめっちゃ速いハードウェアがもてはやされていますが、ここでもその GPU を計算がとても速いノード数の多い処理装置として使うことにします。この GPU の購入というのが、本クラウドファンディングの寄付の対象となっています。

速い専用のハードウェアを購入し、学習とデータ処理を行わせて、最終的に、ヒッグス粒子とトップクォークの結合定数を測定することを目指しています。

これが目論見ですが、寄付が希望額に到達しない場合は、私のクラウドファンディングは、チャラ（不成立）になります。集めた寄付をいただいた人々にお返しするそうです。このため、成立し達成することを強く求められています。皆様個人に寄付を募るつもりはありません、経緯として述

べます。ついでにこの寄付行為は、確定申告の時の控除の対象となります。12月1日現在、クラウドファンディングは皆様のおかげで成立しました。ご支援に感謝します。

ここで述べたような動きのクラウドファンディングですが、私にとって最も重要なのは、より多くの市民に「宇宙の研究」の一つに私の提案のようなアプローチがあることを知ってもらいたいということです。AI = 深層学習は市民と宇宙を繋ぐキーワードですが、より多くの市民に宇宙や素粒子の世界に興味を持ってもら得るような情報を提供することにより、今までおろそかだった、研究の夢を伝えて、私たちと同じように「ワクワク」してもらえるよい機会となることを願っています。

academist

AIを活用して「質量が生まれる謎」に迫る！

寄付型

竹下 隆
信州大学、特任教授

支援総額: 607,000 円
目標金額: 500,000 円

達成率 121 %
サポーター 47 人
残り期間 2 日

支援する

▲クラウドファンディングの121%達成（目標額50万円／支援総額60.7万円）を表示する academist(アカデミスト)のホームページ(12/8)。最終的には126%となった

在野精神で武者修行し、あがたの森へ
—音研同窓会・記念植樹の裏話—

昨年来、ドタバタしながら当会報で経過をご紹介いただいた音研同窓会の中締めと記念植樹が 2021 年 4 月 3 日（土）に決まり、春を待つばかりになりました。

同窓会といっても 50 年を経て跡継ぎなく高齢化し、36 名になった小さな集まりです。植樹は植えれば終わりの簡単な事業ではなく、樹木は生きもの。恒久的な維持管理まで責任を担うと、それなりの費用がかかります。提案と寄付の呼びかけに会員 8 割以上の賛同と、音研から独立したマンドリンクラブからも応援を得て、60 万円を超える基金ができました。写真にある「あがたの森」中央の枯れ木跡に、深紅の「百日紅」（サルスベリ）を寄贈することを、松本市役所から決裁をいただいたことは感無量でした……。

百日紅の足元には、『遥かな友と輝いた青春の音楽この地から』と、旧制松本高校由来の信大音楽の発祥を書いた、ステンレス製の小さな銘板を添える予定なので、来夏以降、真っ赤なサルスベリとともにご覧になってください。



▲植樹が予定されている松本市県の森公園

羽田智恵子（文理学部社会科学科 16 回／事務局 東京都港区在住）

♪♪ 植樹の糸口には二名の物理 OB が……

記念植樹に至る迄に様々な糸口がありましたが、原資を提供いただいたのは、物理 OB で、音研 OB でもある 14 回卒の高根十士靖（旧姓・畔上）さんでした。たくさんの武勇伝を残した豪快な先輩でしたが、彼が逝去した直後の平成 14 年（2002 年）5 月に、音研 OG の恒子夫人から「夫の想いです」と 10 万円をいただき、「高根基金」としていつか何かのために・・・と大事に保管してきたのです……。

そして、中締めを考えていた私の背中を押して下さったのも物理 OB で 10 回卒の松原正樹さんでした。昨年秋、音研会員の意見を集める中、『(自分が関わってきた諸団体は) 中途半端に消えていくことが多いので、中締め賛成です』の趣旨で意見が寄せられ、決断の大きなきっかけになりました。



▲今年 10 月 8 日・植樹の打合せで松本にて

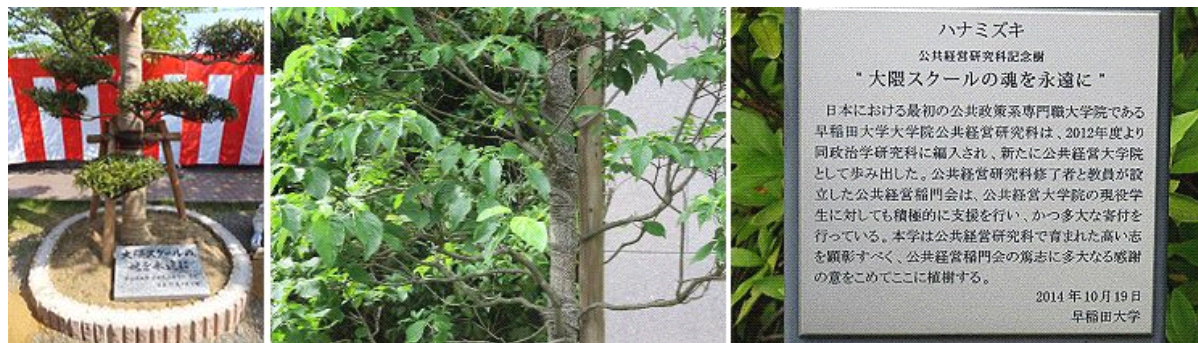
こうして、先輩からの応援を受けながら、下ごしらえをしてきましたが、『なぜ植樹なのか』・・・ここには在野精神の武者修行で培った外部体験がありました……。

♪♪ 記念植樹のノウハウは私大同窓会の経験から

音研同窓会の中締めに私が「記念植樹」と言い出した当初は、想定外だったので、足元から驚きの声が上がりましたし、恐る恐るお伺いをたてた市役所も冒頭では「前例がない」の返答でした……。ここに至れば驚くような話ではなくなり

ましたが、別の場所で別の体験をしてきたノウハウを活用することは、新しい発想で既存の組織を刺激し、それなりの影響と成果を提供できると、我ながら実感しています。

私が比較的余裕をもち、具体的なイメージをもって、楽しみながら準備を進められたのは、幹事長だった東京の私学同窓会で大がかりな組織をつくり、凱旋門的な植樹を2回経てきたことが背景にありました。他大学の例で恐縮ですが、こんな動き方をする同窓会があるのだ……の実例として、ご参考にしてください。



▲(左)2013年5月、佐賀市の大隈祭で記念館前に「榎の木」を植樹、(中)2014年10月、早大本部に植えた「ハナミズキ」 (右)その脇に『大隈スクール』の名前とOBの魂を形に残すためのプレート

ことの始まりは、皆が誇りをもって在学した大学院の看板が使用の制限を受けることになり、無念を晴らすため、早大の執行部（教授会）と交渉を続けながら、300名の（院）同窓会で、200万円を超える募金を集めて大学へ寄附し、聖地2ヶ所に3年がかりで植樹をした一連の物語です。（下記に説明）

かたや、信大音研同窓会の植樹は、これらの成果を応用して、《上記写真のような完成形のイメージ》を念頭におき、関係者の皆さんと段取ってきたので、見通しよく迷わずプロジェクトを進めることができたのです……。

♪♪ 植樹は凱旋門。背景に涙ぐましいドラマが・・・

そもそもの話は(2004年～)2年在学し修了した日本初の公共政策系大学院が10年で組織再編されたことから始まったのですが、なぜ佐賀と大学本部の2ヶ所に大げさな植樹をしたのか……。背景には涙ぐましいドラマがありました。

ハーバード大学の『ケネディスクール』（公共政策大学院）が有名ですが、それに対峙して、早大は2003年に『大隈スクール』を開校しました。それから10年、政経学術院の実力者で、のちの早大総長を中心に、大隈スクールについて政治学研究科との合体案が提示され、『「大隈スクール」の看板は〇年～使用禁止』となりまして……。

そこで、同窓会では『大隈スクールの魂を永遠に！』と植樹に刻み込んでおこうと考え、当時 300 人の同窓会で幹事長だった私は、40 代の若い会長（大阪・朝日放送テレビのニュースキャスター）とタックルを組み、教授陣も巻き込んで組織を広げ、3 年間頑張り続けた末の記念樹 2 本です……。

早稲田の同窓会（「稲門会」といい約 1300 存在）は根元が総長室に 1 本化されているので、大学本部や教授会と密接な関係にあり、寄附を集めながら組織で動く……このあたりは信大と異なったスタイルですし、愛校心の表現がリアルかもしれません。交渉と寄附の成果というべきか、佐賀の大隈記念館に加えて、新築された政経本館（3 号館）の正面玄関脇に記念植樹が許され、大学と合同で除幕式を開催しました。

一連の行動と実績は、当時の総長から表彰を受けたほか、相棒の会長と私は、3 号館のロビー内に、功労者として名前がプレートに埋め込まれています。大学は個人的な寄付額でも日常的に公表し、OB OG を顕彰する点は、国際舞台を意識した欧米発想で情報公開と透明性を保っているように感じています。

少し補足しますと、2014 年 10 月、大学本部の 3 号館前にて植樹の除幕式のあと、著名人を招いて講演イベントを開催し、その後は更に、100 人規模のパーティをホテルで開きました。このあたりはいかにも私学的なパフォーマンスですが……。

♪♪ ギリギリセーフの信大貢献でしょうか

50 年近くもの間、大したことをしないまま、音研や文理同窓会に所属してきましたが、殆どの同窓会から卒業する今、私にとって最大の信大貢献ができるかもしれないと嬉しく感じています……。

信大の同窓会で一番神経を使ったのは、『他大学の話はタブー』の雰囲気でした。理工系より文科系 OB にこの傾向を感じますね。（学部から私学に学士入学し、大学院を経て研究所の研究員に至る現在まで、20 年近く在籍している早稲女ですが、近況報告も御法度としたら明治？ 大正？）私大で信大の話をしようが自由だし、逆に関心を持たれるので、このタブーはどこからきているのか……中々理解に苦しむことですが……。

人・カネ・モノ・情報は年々歳々グローバルとなり、人工知能に支配されるかもしれないシンギュラリティが 2045 年に迫るとされます。しかも、今世紀末（80 年後）の日本は、人口が現在のわずか 40%、5000 万人国家になり、どんどん子どもがいなくなるのですから、各大学の存立が危ぶまれている。『他の大学の話は NG なんて言っている場合ではありませんよ！』（と、ドラマ「相棒」の杉下右京なら、き

っとう叫ぶでしょうね・苦笑)

仮に私が信大の同窓会長なら、『国公立私立を問わず、他大学の同窓会がどんな仕組みで、どんな方針やプログラムを持ち、いかに大学や同窓生に寄与して、大学の質的向上や広報に役立っているかについて、猫の手を借りてでも徹底的に調べてください!』とお願いしますが…… (笑い)。

たった1本の樹のために、信大OBOGだけでなく、たくさんの皆さんが影に日に支えて下さいました。長野県内の市長である友人は、『松本の市政に口出しはできないけど、もしも公園に植樹が困難な場合は協から手助けする用意がありますよ』と……。

お陰さまで松本市役所の好意的な判断により実現寸前までできていますが、この市長は信大でなく東京の私学の出身で、ともに「記念樹2本」のため奔走した仲間です。社会は境界なく様々なネットワークで動いており、目標を掲げて本気で走れば大勢の協力で何とかなるものですね～



▲松本市内で春の植樹を待つ「百日紅」の若樹

♪♪ 国境の長いトンネルを抜けた先の灯り

私たちはこの年末も長くて不安なトンネルの中にいます。川端康成の小説『雪国』にある『国境の長いトンネルを抜けると雪国であった』を思い出しませんか？

やがては終息するとして、先に広がる社会の光景や仕組みやルールはガラリと変わるように思えてなりません。小中高校では実務とインフラの改革が進んでいますけど、大学も同じことで、大きな校舎をもち、一斉集合の講義スタイルを当たり前にしてきた仕組み自体が、存在意義を問われているのではないのでしょうか。そこに関わる同窓会も「母校は永遠に続く」と思い込むことなく、次世代へ希望の灯りを掲げて、役割と存在価値を考え直す大きなチャンスではないかと感じています。

《 信州大学理学部物理科の開設2年目から35年間、研究と学生育成に尽くされました 》

さよなら 吉江寛 先生 追悼特集②

理学22Sの卒業生、とりわけ吉江先生から直接指導を受けた統計研究室の卒業生の諸君から哀悼の言葉が寄せられました。(P14からのつづき)

■ 吉江先生 ありがとうございます やすらかにおやすみください ■

大西 武彦（22S/統計研究室 茨城県立竜ヶ崎第一高等学校・附属中学校 取手市在住）

吉江先生の訃報を頂き、本当に残念でなりません。卒業研究のデータ取りのためにフェアレディZの助手席に乗せていただき、京都大学まで連れて行っていただいたことが思い出されます。肝心のデータ取りで自作のサンプルをセットしますが共鳴点が見つかりません。焦って右往左往していると先生が「ちょっとどけ」と言って代り、あっという間に調整してくださったのを昨日のように思い出します。1990年度（1991年3月）卒業の私は、広島自動車メーカーへの就職を目指していました。出来の悪い学生だった私のために、おそらく先生は苦心して推薦文を書いてくださったと思います。先生の花向けの言葉は「広島には一番うまいと思っている酒がある。『幻』という酒だ。気が向いたら、もって来いよ。」という先生らしい味のあるものでした。後日手土産としてお渡ししました。一緒に封を切って杯を交わせばよかったと悔やまれます。しかし当時の私は先生を敬愛すれど、まだ若造で自尊心も低く、先生を遠い存在としてしまっていました。



自動車メーカーで7年間を過ごし、紆余曲折あり地元茨城の県立高校の教員になりました。報告させていただくと「人生いろいろあるからな。俺も長野の教育界といろいろつながりができている。俺に恥をかかせるようなことはするなよ」という吉江節の後に「困ったことがあったらいつでも話は聞くぞ」というものでした。教員になって23年。大学時代の私に接してくださった吉江先生の年代になっていると思います。先生と大人としてお話させていただけるころかなと思っていた矢先でした。悔やまれてなりません。手元に先生の著作の「みぢかな物理」があります。たびたび授業準備の参考にさせていただきましたが、改めて読み直してみると先生の物理現象の造詣の深さと行間ににじみ出る人間味の深さをしみじみと感じます。吉江先生、天国でいろいろとお話しできるよう頑張ります。どうか安らかにやすみください。ありがとうございます。

■ 「お前は、俺の後継者だと思っていた」と言われ ■

來田 歩（22S/物性論研究室 株式会社科学工房未来 代表取締役 福岡県糸島市在住）

自分たちの未来は、個々に、詳細にわたると、どうなるかわからない。たぶん、今の原因が、あって、結果としての未来があるのだろうけれど、その原因がわからないことがある。それは、複雑すぎてわからないのか、そもそも、わからないものなのか、不確実性の現代ともいわれるけれど、おおかた、わかることもある。人は、必ず死んでしまう。2020年の12月現在では、多くの人が、そう思っている。2045年には、人は死ななくなるといういわゆるシンギュラリティの信者に対して、懐疑



的な自分も、おそらく、人は、いつかは死んでしまうんだと、思っている。

精神物理学を創始したと言われるグスタフ・フェヒナーは、死後の世界はあるとして、その存在を疑わない。ある種の宗教でも、死後の世界は実在する。先日、ノーベル物理学賞を受賞したひとり、ロジャー・ペンローズも、死後の世界は、あると考えている、たぶん。それを、生きている人たちも、感じることができる。それが、彼が提唱している量子脳理論なんだけれど、もちろん、量子脳理論によって、彼はノーベル賞を受賞したわけではない。

まあ、とにかく人は、死ぬ、いずれ。それから、歳をとる。時間の流れは、同じ方向に流れていて、誰かが生まれるけど、誰かが、死ぬ。僕も、いつか死ぬ。死ぬということがあって、そこに行列を作って、死が自分に訪れる順番を待っている。若い時は、それほど、行列を意識しなかった。誰かが死ぬ。残された、生きている人たちは、そんな死んだ人たちを、思い出す。言葉を綴る。死んだ人も、言葉を綴っているかもしれないが、そんな言葉を、僕は、まだ、読んだことがない。

吉江先生が、亡くなられて、なにかを書いてほしいと、依頼された。なにか、言葉を。それほど、つながりがあったわけではない。書く資格がありませんと、辞退すればよかったか？ 書く資格というのは、どんな資格なんだろう？ よくわからない。よくわからないまま、この仕事を引き受けている。

吉江先生が亡くなられたと知った日は、有馬郎人氏が亡くなられたと知った日でもあった。物理学者であり、元東大総長でもあった氏など、それこそ面識もないのだけれど、彼は、俳人でもあった。物理学者でもあり、俳人でもあるといえば、寺

田寅彦である。僕は、寺田寅彦に憧れて、物理学を志した。いわゆる文章が書ける学者になろうと、漠然と思っていた。

吉江先生も、文章を書かれた。僕が学生だった頃、僕は、その文才を知ることとなる。吉江先生は、「棒球倶楽部」という教官が作った草野球チームの監督を務めており、その試合結果などを報じる「棒球タイムス」を書かれていた。それから、海外留学をされて、その時の体験などをまとめて、『お父さんプラハへ行く』という本を出版されていた。諧謔^{かいぎやく}的で、小



▲2002年4月28日、浅間温泉のみやま荘で開かれた退官記念パーティ。上は全国から集合した面々と記念撮影。下は吉江先生と筆者のツーショット

◎吉江先生の退官記念パーティの様相↓

<http://www.supaa.com/yoshie/index.html>

気味のいい文章だった。そうそう、吉江先生は、文章の中で、自分のことを「お父さん」と書いた。

おそらく本人も忘れておられるだろうし、僕も記憶がおぼろげなのだが、名古屋大学理学部の院試の失敗に続いて、信大理学部院試にも失敗した時に、「来田を合格させてやりたかったが、お前を合格させると、皆、合格になっちゃうからなあ」と声をかけてくれた。「お前は、俺の後継者だと思っていた」とも、ほんとにかすかな記憶なのだが、しかも、この場面だったかも定かではないが言われた。何故、そう言われたのか、寺田寅彦に憧れて、物理学を志していた僕は、「信州大学物理学研究会会誌」というものを発行していた。情報センターというところがあり、当時は、物理学科の人たちがたむろしていて、そこに置かれたノートに、色々書き込んでいた。おそらく、その拙い文章を読まれていたのかもしれない。

「文章を書く」というところに、同じ血が流れていると、思われていたのかもしれない。吉江先生は、皆から、「吉江さん」と呼ばれていた。なぜか、そう耳に覚えがある。では、自分が、「吉江さん」と呼んでいたかという、そういう風に覚えはない。やっぱり、吉江先生なのだろう。

3年生の学生実験に、NMRの測定があり、ガラスのような管に、ガスバーナーを当てて、管の一方を溶かし、試料を入れる。もう一方を、ぎりぎりまで、均一に細くする。均一にギリギリまで細くするために、ガラス管をくるくると回す。ガスバーナーは、空気の入入れ方で炎が違ふ、それから炎の位置も重要、つまり、コツがいる。ギリギリまで細い管が作れたら、ロータリーポンプで真空に引きながら、細くなった管を、焼き切って、真空封入させる。吉江先生は、これがとても、うまかった。そして、NMRで、共振のピークを探すのだけれど、これもちゃっちゃとやってのける。

統計研究室で吉江先生のもとで、卒業研究をした同期の話である。赤いフェアレディZで、中央高速を使って、京都大学まで行き測定をした思い出を語ってくれた。それから、いきつけのバーに連れて行ってもらったことも。一度、吉江先生が書かれたペーパーをどこかで、斜め読みしたことがある。3元系か、4元系の希土類の合金のNMR測定の論文で、その組成違いの論文も目にした。ほんと、組成だけが変わっていて、フォーマットは一緒だった、これも、記憶だけなので、正確ではないかもしれないけれど、まさに、「銅鉄主義」の極みだった。職人氣質で、文章がかける物理学者、というのが吉江先生の印象だった。

メソンという大学祭で物理学科が、やる飲み屋があつて、厨房として学生実験室を使用していたのだが、最終日の後片付けで、自然と盛り上がり、酒盛りが始まり、深夜に及んだ。最初は、うるさいと注意にこられた吉江先生だったが、もう、こちらは、ぐてんぐてんである、あきらめたのか、お酒を、差し入れしてくれた。そん

な吉江先生は、人間味があつて、親しみがあつて、学生からも人気があつて、それで、吉江先生ではなく、吉江さんと呼ばれていたのだと思う。

死んだひとを、言葉で、送るのは、まだ、生きている人の役割だと思う。資格というのがなくても、お経を唱えるように、言葉を。こんなんでいいでしょうかねえ、吉江先生。なにか、書き加えてほしいこととか、ありますか？

何の躊躇もなく書いてしまう自分に、いずれ、バチがあたるかもしれない、もうバチがあたっているかもしれない。

南無阿弥陀仏。

■ 吉江先生を偲んで ■

土橋 豊(22S/統計研究室 株式会社シンキー 東京都練馬区在住)

吉江先生は3年生への研究室紹介の際に「吉江研の卒業研究は一週間しかない」と言っていました。どんな意味なのか分からず、ただ先生のお人柄に惹かれて吉江研に入ってみると、12月まで学内で磁性金属の試料の製作をし、それを持って京都大学の実験室で1週間泊まり込みの測定をするということでした。先生は実験の手ほどきだけ示し、その後の指導は大学院生が担っていましたので、今思い出すと正に「一週間だけの卒業研究」の気分でした。私の実験は上手くいきませんでした、それまでの準備がいかに重要であるか、物事を成し遂げるのに大切なことを教えて頂いたと思っています。



それでも学生と接する時間が最も長かったのは吉江先生だったのではないのでしょうか。廊下を歩いていると「コーヒー淹れてくれ」と呼び止められて教官室で話し込まれたり、スナックに連れられカラオケしたり、OBがお土産持ってくると学生も呼んでくれたり、研究室にいとよく声をかけてくれたことを思い出します。ちょうどその時期と前後して先生は幾度かプラハを訪問していました。先生の発行する「棒球タイムス」や「月刊おとうさん」に連載された紀行文が楽しく、それをまとめて発刊した「おとうさん、プラハへ行く」を、今でも大切に読んでいます。

4年になってすぐ私の父が他界した時には、「俺が父親代りになるから何でも相談しろ」とボソッと伝えてくれました。また、私が教員採用試験を受けながら企業への推薦状を書いてもらおうとしたら、「採用試験が終わってから応募するのが筋だろう？ 推薦状はいつでも書いてやるから」と諭され、まさに「おとうさん」のような教育者だったと思います。

卒業して1~2年リクルート関係でお会いしたきり、その後すっかり足が遠のいてしまいました。先生に触発されて私も旅行でプラハへ行く機会があり、何時かその報告もしたいと思っていました。偶然にも吉江先生が夢に現れ懐かしく思っていた時の訃報で、ご無沙汰を悔やんでいます。心よりご冥福をお祈りいたします。

■ 「シャコ」の思い出 ■

半田 雄士 (22S/統計研究室 長野県在住)

吉江先生の部屋に呼ばれて入ると、何やら皆、虫のようなものを食べている。そのとき初めて、そのグロテスクな食べ物が「シャコ」と呼ばれていると知った。恐る恐る食べてみると、うむ、とてもうまい。そのままパクパクと何個も食べた気がする。

先生の訃報を聞いて、まず思い浮かんだのが、なぜか「シャコ」だった。あれから30年経ち、いつの間にか当時の先生と近い歳になっている。そして、その間一度も「シャコ」を食べていないことに気がついた。

先生はいつも笑っておられたが、鏡を見れば仏頂面のおっさんが映る。なぜか今、無性に「シャコ」を食べたい。

ご冥福をお祈りします。

■ 先生の訃報に接して ■

茂木 茂男 (22S/統計研究室 ネットヨタ広島株式会社 社長室室長 広島市在住)

先生ご逝去という突然の知らせに驚きました。数年前に年賀状終了宣言があり、お元気かどうか気にはなっていました。奥様をはじめ、ご家族の皆様にはお悔やみ申し上げますとともにご冥福をお祈りいたします。

吉江先生といえば、行きつけのバーでよくお酒を飲んでいたことを思い出します。夜実験をしていると連れて行ってもらい、ボトルキープしていたお酒を前に、「たまになら俺がいなくても飲みに来ていいぞ」といい、お酒を飲むとかなりの確率で奥様の話をしていました。何度かご自宅へお邪魔した時にも奥様と楽しそうに話したり、甘えたりしているのを見て、学生ながらにほほえましく思いました。卒論のデータをとるために京都大学へ行った時には、研究室の同期と京都観光もでき、楽しい時間を過ごせました。しかし肝心の実験では、私自身の試料では思った



ようなデータが取れず、非常に悔しい思いをしましたが、先生は怒るでも叱るでもなく、実験には失敗がつきものと言って慰めていただきました。本当にやさしい先生で、思い出すのは楽しそうな笑顔で天国でも朗らかに笑っていると思います。

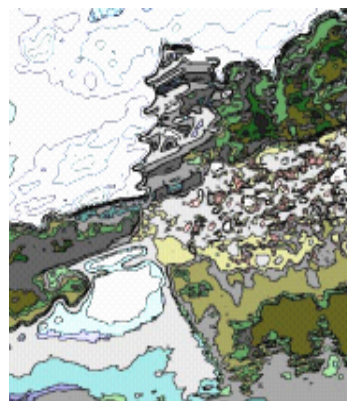
思誠寮列伝 其の参



幾多の様々な出会い～僕の人生のルーツ！

信大時代の青春を呼び起こす機会をうれしく思います。私は、ちょうどバブルが崩壊し、社会情勢が激変し始めた時代、信州大学理学部物理学科に入学。長野オリンピック開催が決まり、高速道路や新幹線が伸び、街がにぎわい始めた反面、松本サリン事件など物騒な事件が起きていました。

松本市は、人生のルーツであり、大好きな街。記憶に残る当時の生活を紹介します。



石原 潤 (92S/統計研究室 元思誠寮長 (株)東京リーガルマインド 副社長 大阪市在住)

☆☆ 「思誠寮」は1920年(大正9年)に開寮以来100年の伝統を受け継ぐ自治寮。1983年(昭和58年)に横田に移転。現在も、人文、経済、理学の2年生以上が入寮しています。筆者の石原さんは、この移転後の頃を経験、懐かしく振り返っています。



1. はじめは「こまくさ寮」

松本市蟻ヶ崎にあった教養部寮から、当時は学部寮と呼ばれていた思誠寮へ進級にあわせて移りました。こまくさ寮はいわゆる旧規格寮で、相部屋の集団生活でした。食堂や娛樂室もあり、教養部に通う1年次生のみ男女14ブロック、学年の約1割になる300名ほどが暮らしていました。

先輩もいない中、「自治寮」として寮三役・寮委員会や入寮選考委員会などを設置して、高校を出たての若者の集団生活、夜な夜な一升瓶で日本酒を回し飲みして・・・、いまのコロナ禍では考えられません(笑)。寮食費の滞納や他ブロックの盗食など、食べ物のお話で集会は可愛く紛糾していました。

2. 信州大学寮自治会連合

ある時、学部寮から強面の信寮連(信州大学寮自治会連合/SRR)の先輩方が来て「ボロい寮はまもなく建替えだ、そうなる」と新規規格寮になる、食堂も娛樂室もなくなる、寮生の団結はなくなる」と言われ、反対運動なるものを覚えました。寮役員として署名活動するくらいですけど。

あれから 25 年経った現在も未だ建替えは行われておらず健在（笑）。正しい情報って大事です。思誠寮入寮後に、信寮連は凍結されることとなり、役目は終わりました。

3. 生協の白石さん

すでに思誠寮は移転後で、住民の反対運動から地域協議会を設け、寮運営をしていました。私の入寮時（北寮）、ブラザーとして面倒見てくれた先輩が、いまや書籍やメディアでも有名な「生協の白石さん」。寮は新規格寮のコンクリ造 2 階建、1 人 1 部屋のいわゆる「個室化」。これを無理やり

2 人 2 部屋に見立て、寝部屋、勉強部屋とわけて共同生活をしていました。当時の彼女（現在の妻）とともども大変お世話になりました。こまくさ寮の新歓委員長をしていたので、4 月になっても思誠寮には寄りつかない不在の新人で…、先輩には失礼をしました。

寮には仙人みたいな先輩がいて、8 回生で除籍されるかと思いきや院生にあがり、更に寮生活続けるツワモノも…。自転車競技部で、その後にツールドフランスに出場する先輩など、個性豊かな寮生がいました。

4. 寮祭

寮祭の期間中は、各寮（北・南・中・西）廊下に畳を持ち出し、こたつを並べ、段ボールで造作して部屋をつくり、炊事当番を決めて皆で溜まって過ごしていました。庭に大きなテントを設け、催し物や寮劇を開催。情宣で学ラン着て松本城を練り歩き、大学グラウンドでファイヤーストームなど。ある時、赤ふん姿で酔ってお尻を火傷して、そのまま信大病院で裸に禪姿で夜間診療を受けたのも懐かしい思い出。

留学生の思誠寮生も増加した時代で、ミャンマー出身のアーさんにはよく遊んでもらいました。フライパンで美味しいナンを焼いてくれて。消灯して裸で他寮を襲うストームも健在で、真剣に学びに来ている留学生には理解されるわけもなく…、問題勃発していました。



▲旭町キャンパスに押しかけた思誠寮軍団。1995 年ころ



▲横田に移転後の思誠寮(上)と現在のこまくさ寮(下)

5. ドラマツの親方

思誠寮には、日雇いバイトが山ほど集まっており、私が元締めしていたのがドラマツのバイト（国道19号線ドライブンマツモト）。23時に入り朝まで働く。深夜スキーバスのトイレ休憩を狙った稼ぎで、一晩20万円の売上が上がる時代でした。社会人になる際のスーツや鞆はドラマツのお金で買いました。新入りはタコ焼き、次にクレープ、上級者は鯛焼きとキャリアUPは決まっていて、材料費と親方の取り分を抜き、人件費は売上の3分の1、これを寮生に日当払いしていました。

夜通しの揚水試験、夜間店舗の棚替え、博物館の夜間清掃など、日雇いで生活し、散髪も新人さんの練習台になり済ませていました。龍彦ちゃん（坂本弁護士）事件の時は、大町市の現場で報道陣が陣取る斜面にバッテリーの上げ下げをしたのを覚えています。長野オリンピック工事ではスケートリンク会場の屋上に上がってクレーンの荷下ろししていました。

6. 松本サリン事件ほか

朝、阪神大震災が発生。揺れの直後に地質科の後輩が「振幅が大きく遠方で大地震」だと。TVをつけて大惨事を知りました。その後に起きたのが「松本サリン事件」。朝からヘリコプターが飛び、信大生も巻き込まれたことをのちに知りました。一連の事件を含め世間を騒がす大問題になりました。

大学祭（銀嶺祭）実行委員長をやり、学部や学生部の大学職員さんにはお世話になりました。行きつけの裏町のスナックに連れて行って貰ったり…。大学祭予算を手続きを通して配分してもらった動機で理学部自治会を復活させたり、全国寮自治会連合（全寮連）の総会出席のついでに学割で浅草ロック座を社会見学したり…。統計研もユニークで、研究室に山崎精一商店からお届けがあり、気づくと他学科の先生もいて一緒に飲んでいたり…。美ヶ原に歩いて登ったり、仮装行列して松本城のお堀に落ちたり…。節分の鬼のバイトや、道祖神の神輿担ぎバイトとか…。

今、思い出しても懐かしい。松本城、縄手通り、浅間温泉…、またいろいろ巡ってみたいものです。最後にご紹介。私のフェースブックは下記です。

<https://www.facebook.com/ishihara.jun.5>

理 学 部 同 窓 会 か ら

□ 2020年学生に向けての理学部同窓会の取り組み中間報告

報告：森 淳（理学部数学科1S 理学部同窓会会長）

今年は、コロナによる大変な年になりました。理学部同窓会は学生向けに、二つの支援を行いました。

一つは、リースしていた学生用パソコン 60 台が 8 月末に契約が終了することに伴う件です。6 月下旬、学部から、「パソコン室に設置されているものを買い取り、引き続き学生の利用に供したい。ついては 100 万円の補助を」とのお話があり、それにお応えしたことです。

通常の講義で使うのはもちろんのこと、リモートによる講義に使わねばならないことから、急いで対応しました。10 月に入り、学部長からお礼と手続き完了の報告を頂きました。それによると、60 台の買い取り、SSD・増設メモリの購入ができ、取り替える必要のあるキーボード・ケーブルの交換なども出来たとのことでした。

もう一つは「困窮する学生への生活支援」です。新学期が始まり、全国的に困窮する学生の状況が伝えられてきました。しかし、当初は学生の登校もありませんでしたし、同窓生といえども大学構内に入ることが難しい状況でしたので、学生諸君の実情把握に努めながら、方法を模索していました。

6 月下旬になり一部の実験・講義が注意深く対面で始められたことから、学部事務との打ち合わせを開始しました。一定目処が立ちましたので、役員の皆さんに「学生生活支援」を提案し了解を得て、学部長に「協力の依頼」の申し入れを行い、快諾を得ました。

「いいことは早くやろう」とのことで、学部事務の差配でお米 100 人分を安く確保して頂き、副食を買い求め、9 月 11 日に「第一回学生生活支援」を行うことが出来ました。一方、会報 36 号にカンパと食料品の寄贈のお願いを掲載しましたところ、早速多くの同窓生からお送り頂きました。

対象学生は理学部学生・院生の一割 70 人程度と考えていましたが、一回目は 120 人も集まってくれ、お米が足りなかった人には副食を少し多めに持って帰ってもらう事になりました。この判断の甘さを反省し、二回目以降は 200 人分用意することとし、12 月 8 日までに四回実施することが出来ました。

毎回、多くの学生さんが集まって（170～210 人）くれ、食料品を手「助かります」と嬉しそうでお礼の言葉を次々に掛けてくれることから、待たれている取り組みと感じています。

また、この年末年始には帰省せず松本で過ごす学生さんも少なくないと考えられることから、12 月 22 日には「松本で正月を迎える学生」対象に、励ます意味を込めて「年越し支援」を行う予定です。当面、新米確保（一回あたり 420kg）もでき、1・2 月にも予定しています。4 月以降については、学部と相談していきたいと考えています。

今回の取り組みは、外から構内に入りにくいこともあって、実際は学部事務の皆さんにお願いし、通常業務の合間に作業をして頂いています。学生さんへの連絡は、毎回チラシを作成し、掲示と一斉メールで伝えてもらっています。



▲上は寄せられた食糧。下は配布に集まった学生

主催は「理学部同窓会」ですが、学生のためにという一点で学部・教職員・同窓会の共同の取り組みと言えるものになっているのが特徴的です。また、大学と先輩が努力していることも直接伝えられ、優しい温かい雰囲気が作られているといえます。それが理学部への帰属意識をつくる一助にもなるのではとの期待もあります。予算上は、同窓生からお寄せ頂いたカンパと、先生・事務の皆さんから出して頂いたカンパを合わせて実施しています。不足分は同窓会会計から出す予定です。

厳しい同窓会会計ではありますが、特別な事態の中で、この取り組みをやり始めてよかったと思っています。今後とも、理学部同窓会にお心をお寄せ頂き、ご支援・ご協力を頂きますよう心からお願い申し上げます。

[付記]

- (1) 他学部生に対しては、他団体が共通教育部（教養部）キャンパスで食糧支援を何回か行ってくれています。
- (2) 他学部同窓会では、直接学生への食糧支援や、大学の呼びかけに応え「知の森基金」に多額の寄付をしているところなど、それぞれに学生支援を行っておられるように聞いています。
- (3) 理学部同窓会 HP に個別に報告として掲載しています。そちらもご覧頂きますようお願いいたします。

今後もカンパ・食料品をお送り頂きますよう重ねてお願い申し上げます。

● ご寄付の送り先 ゆうちょ銀行 口座記号番号 00500-2-78885

加入者名 信州大学理学部同窓会

(他金融機関からは 店番：059、種目：当座、店名：〇五九、口座番号：0078885)

● 食料品などの送り先（持ち込み先）

〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1 信州大学理学部総務グループ

- (4) 学生さんへの「励ましの文」をお寄せ頂ければ幸いです。会報 37 号（来春号）に掲載させていただきます。

・科と学籍（〇〇S）、氏名をお書きの上、理学部同窓会にお送り下さい。

（2月1日までに到着は37号に、以降は38号になります。）

E-mail : rigakudou@shinshu-u.ac.jp

郵便 : 〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1 信州大学理学部内 信州大学理学部同窓会



□ 第14回信大物理学生世話人会、Zoomを使ってオンラインで開く

当会の「学年世話人会」の学生・院生の6学年の集まりである「学生世話人会」の通算14回目の会合が、リモートで開催されました。ただ、オブザーバーの2名を除くと、出席者は会長と1年生世話人の2名という寂しい会合となりました。

■ 日時：12月12日（土）午後10：00～11：00

■ 出席者（敬称略）：高田 郁也（M2/学生世話人会会長）、庭野佑基（1年/学生世話人）高藤（2S/事務局長）、百瀬（17S/副事務局長）計4人

■ 議事：



1. 自己紹介（省略）

2. 事務局より

- ・信州大学物理同窓会について説明。詳細はホームページ（<http://www.supaa.com/>）
- ・同窓会会員は71学年で2000人ほど。
- ・学年の世話人と研究室の世話人が中心となり連絡を取りあうことになっている。
- ・信州大学理学部の中では物理学科/物理学コースは同窓会活動が活発
- ・WEB会員登録を進めていただきたい。

3. 次年度役員選出

- ・高田会長から現4年生の学生世話人の進路を確認して、信大大学院進学の場合に学生世話人会長の依頼・引継ぎを進める。

4. 信州大学物理同窓会総会について

- ・従来は5月の最終土曜日に総会を開催してきた。
- ・今年度はコロナ禍で開催できず。
- ・来年度の開催についても現時点では白紙。事務局として、開催の場合には学生世話人会の協力をお願いしたい。

5. 次回学生世話人会

- ・2月末～3月初旬（候補日：2/27 または 3/6 等）コロナ禍で開催できず。
- ・来年度の開催についても現時点では白紙だが、事務局として、開催時には学生世話人の皆さまの協力をお願いしたい。

5. 次回学生世話人会

- ・2月末～3月初旬（候補日：2/27 または 3/6 等）

【報告：百瀬佳典/17S】

□ 信大総合人間科学系学系長(全学教育機構長)に高野先生再任

信州大学は12月23日、全学教育機構などの教員で構成する総合人間科学系の次期学系長に、3期目となる高野嘉寿彦氏が決まったと発表した。任期は来年4月1日から3年間。

任期満了に伴う選挙が12月22日に行われ、高野氏1人を候補者に所属する教職員59人による信任投票の結果、過半数を得た。教授会議を経て23日の学長面談で承認された。1年生を主とする共通教育を担う全学教育機構の機構長も兼ねる。

高野氏は記者会見し、文部科学省の高大接続改革を念頭に本年度新たな枠組みとなった共通教育カリキュラムの安定的実施や、国が推進する「データサイエンス」のリテラシー教育を導入・体系化することなどに意欲を示した。来年度は大学の方針に沿って原則対面で授業ができるよう準備していると述べた。（鎌倉 希）（市民タイムス 12/24 より抜粋）



高野嘉寿彦氏

信州大学（本部・松本市旭3）は23日、全学教育機構などの教員で構成する総合人間科学系の次期学系長に、3期目となる高野嘉寿彦氏が決まったと発表した。任期は来年4月1日から3年間。

高野嘉寿彦氏（たかの・かずひこ）東京理科大学大学院博士課程修了（理学博士）。平成5（1993）年から信大18年に全学教育機構教授となり27年から現職。山形市出身。松本市蟻ヶ崎6。57歳。

信大総合人間科学系学系長に高野氏再任

主とする共通教育を担う全学教育機構の機構長も兼ねる。

高野氏は記者会見し、文部科学省の高大接続改革を念頭に本年度新たな枠組みとなった共通教育カリキュラムの安定的実施や、国が推進する「データサイエンス」のリテラシー教育を導入・体系化することなどに意欲を示した。来年度は大学の方針に沿って原則対面で授業ができるよう準備していると述べた。（鎌倉 希）



SHINSHU UNIVERSITY

● 高野嘉寿彦氏（たかの・かずひこ）東京理科大学大学院博士課程修了（理学博士）。1993年から信大。2006年に全学教育機構教授となり2015年から現職。山形市出身、57歳。

【W | E | B | 登 | 録 | 者 | 拡 | 大 | 運 | 動 | ご協力ください！（再掲載）】

信大物理同窓会事務局では、会員同士を結ぶ“絆”としてWEB会員登録をたいへん重視しています。WEB登録いただければ、当会メーリングリストに加入でき、会報や役員会議録、会報の発行情報、メルマガ等が受け取れます。また、個人から登録者全員への情報発信もできます。一旦登録された方は、ほとんど辞めずに継続されています。つまり、世代や学年そして研究室の枠を超えて同窓会員同士が生涯に渡ってお付き合いできるツールとなっています。

しかし、このシステムを知らない会員がたくさんいます。そこで、あなたの友人・知人で未登録の方がいましたらこのメルマガを転送するなどして、個人的に勧めていただくよう、お願い申し上げます。

● 当会会員登録WEBページ → http://www.supaa.com/supaa_form.html

近年の登録者数の推移は以下の通りです。ここ数年は登録者が増えています。おかげさまで、現在の登録会員の総数は400名を超えています。

◎信大物理同窓会WEB会員登録者数（新規・変更）の年間推移

2010年：16人 2011年：10人 2012年：13人 2013年：9人 2014年：9人

2015年：22人 2016年：45人 2017年：35人 2018年：23人 2019年：18人



<再掲> ■「同窓会費」は終身会費として1万円。『会計細則』決まる！ ■

1. 同窓会費は終身会費として1万円とする。一括払いを原則とするが、本人からの申し出があった場合は事務局長が分割払いを認めることができる。
2. 事務局長名で金融機関に同窓会の口座を設ける。事務局長が通帳・印鑑を管理する。会計担当がカードを管理して口座からの出し入れなどを行う。
3. 在校生からの同窓会費徴収は、事務局が徴収日を決めて実施する。徴収後、在校生の会費支払い者リストは、すみやかに会長ほか、会計担当および関連事務局員に伝達する。
4. 金融機関への振込み手数料は会員の負担とする。
5. 会計担当は、年1回開催する総会を利用したり、メールで呼びかけたりして、卒業生からの会費徴収に勤める。
6. 毎年開催の同窓会総会における参加費の徴集など会計管理については、その年の幹事が担当し、事務局が補佐する。必要経費は事務局から事前に仮払いのかたちで支出できる。幹事は開催後しかるべく

早く収支を事務局に報告し清算する。

7. 会計年度を4月から翌年3月とする。会計はすみやかに決算報告を作成して会計監査担当から監査を受ける。

8. 本細則の改正は総会で行う。

▼下記いずれかの口座に「同窓会費」のお振込みをお願いします！



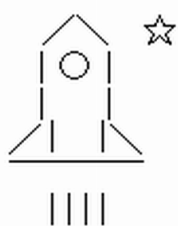
◆郵便局の場合／通常郵便貯金 記号：11150 番号：20343411 口座名義：信大物理同窓会 代表者 武田三男（たけだみつお） 住所：390-8621 松本市旭3-1-1

◆銀行の場合／八十二銀行 信州大学前支店 店番号：421 普通預金 口座番号：650215 口座名義：信大物理同窓会 代表者 武田三男（たけだみつお） 住所：390-8621 松本市旭3-1-1

◎編集後記◎

◆・・・今年も、あとわずか。昨年の今頃は、10年以上勤めてきた会社を辞めて、移住先の糸島で新しい生活を始めた頃だった。この1年、予想できない、いろいろな事があった。と、毎年、同じことを感じている。こんなに予想できないのだから、来年の今頃の自分も予想できない状態になっているんだろうなあ。そのことは、言葉を変えると、わくわくするという事かもしれない。今年のノーベル物理学賞は、あのロジャー・ペンローズが受賞した。それで、ひとり、興奮していた。僕にとってのロジャー・ペンローズは、ブラックホールの、とか、ペンローズ・タイルのとかではなく、科学エッセイ「皇帝の新しい心」、その続編の「心の影」、つまり、量子脳理論のロジャー・ペンローズである。それで、あの、ロジャー・ペンローズが・・・と、ひとり、ほくそ笑んでいたシダイ。来年は、どんな年になるのだろう。 (AK)

★・・・吉江寛先生の訃報が飛び込んできました。吉江先生といえば、フェアレディZ、棒球队監督、タイムス編集長。授業は学生実験でお世話になっただけのはずなのに。私と同期で統計研だったT氏の結婚披露宴では永井先生の主賓挨拶のあと、歯切れ良く乾杯の音頭をとられた。
(名スピーチ！！)長野県の結婚披露宴は時間が長いので、途中で、「コーヒー飲みに行こうぜ」と信大学生関係者を誘い出すような不良(?)来賓でしたが、なぜあんなに学生に愛される先生だったのでしょうか。しかも大学の先生として後年、共通教育センターで開講された「おもしろい物理学」の講義には、1,246名(入学定員は1,984名)もの受講希望者があったと記録されており、その力に改めて驚くばかりです。謹んでご冥福をお祈りいたします。 (NA)



■・・・感染予防に必要な距離は測定可能な物理的距離であるにもかかわらず『ソーシャルディスタンス』と言われるようになっている。英語の苦手な息子からもこの不自然さを指摘され、調べてみるとWHOでは“social distancing”であって、distancingは『距離をとる行動』で“social”は行動を修飾する形容詞であり、(感染防止のために)距離をとる行動が『社会的』であることを示している。『距離』そのものを示す言葉ではない。しかし、日本に限らず、感染防止のための『距離』そのものを指し示す使われ方が増える中で、WHOも“physical distancing”に切り替えたいと考えているようだ。本来の“social distance”とは直訳からも予想可能なように“社会的な距離”であり、河井夫妻が自民党を離党した事で変化する2者の間の関係がその例である。(この例は幾分“political distance”に寄っているが)感染を避けるために必要な“物理的な距離”の意味はこの春まではなかった。さて、ここ

で改めて、最近の日本語のカタカナ言葉にはその言葉を使うことでの”誤魔化し”が隠されていることが多いように思う。『ソーシャルディスタンス』についても同様と考えるが、長くなるのでここでは割愛する。ことばというものは変化するものであるが、”誤魔化し”は可能な限り排除するように気を付けたい。(YM)

◇・・・今年の2月後半から全ての集いがキャンセルとなる新型コロナ禍のために、5月に新宿にて予定していた物理同窓会総会も中止せざるを得ませんでした。総会が中止となっても、事務局会議は以前と変わらず Skype 会議にてしっかりと月例での議論を継続してきています。物理同窓会としての学生向け支援については具体的な動きが出来てはおりませんが、竹下先生の研究テーマについてのクラウドファンディングについては、物理同窓会 ML での呼びかけもあって、126%達成という成果を上げることが出来ました。ただ、誠に残念な吉江先生の訃報には多くの同窓生から先生を惜しむ言葉が寄せられ、お世話になった一人として先生の誠に大らかなお心遣いに感謝申し上げます。先生の助手時代に工作室と暗室を何度となくお借りして、全紙大の多数のパネル作成と印画紙焼き付けと、徹夜しながら自然研での貴重な多数の写真パネルを製作できたのは、先生のお心遣いの賜物でした。心よりご冥福をお祈り申し上げます。(HT)

●・・・仏陀が残した言葉に「嘘をつくな、真実を語れ」がある。世界中の親がわが子に最初に教えるいろはの「い」だろう。あろうことか、我が安倍前総理が国権の最高機関たる国会で嘘を繰り返していた事実で大騒ぎ。前総理は釈明のなかでも嘘をつき、嘘が嘘を呼ぶ嘘の連鎖を繰り返すという情けない状況だ。このような人物が7年8ヶ月という長きに渡って首相にいたのだから、国がおかしくならない訳がない。新型コロナ対策の失敗もそのひとつだろう。では、誰が彼を支えたのか？ 最大の支持者は、嘘を垂れ流し真実を伝えなかったこの国の大手マスコミ・報道機関であると思う。中でもテレビ媒体、特にNHK報道が強力な支援者に？ 第二次安倍政権がまっ先に取り組んだのが、報道への介入で、その手始めは思想が近い舛井氏をNHK会長に据えたこと。徐々に民報にも手を伸ばし、物言うキャスターや解説者が画面から次々と消えていった。結果、報道の自由度は世界の6位から70数位に沈んでいった。この動きを主導したのが、誰だろう菅官房長官(現総理・元総務相)である。米国では報道機関は国民を代表して民主主義を支える一員との自覚が強く、トランプ氏の口撃に一步も引かなかった姿勢はご存知の大統領選挙で垣間見られた。我が国とは雲泥の差と言えよう。(MT)

=====

● 信州大学物理同窓会会報 0075 号 (2020-2021 年冬号) SUPAA BULLETIN No. 75 ●

● 2020 年 12 月 28 日発行 ●

□ 編集・発行／信大物理同窓会事務局

□ 編集長：高藤 惇 □ 発行人：太平 博久

《編集委員》高藤 惇(2S) 渡辺 規夫(4S) 太平 博久(6S) 足助 尚志(17S) 百瀬 佳典(17S)
来田 歩(22S) 武原 一記(22S)

■当会報のバックナンバー閲覧サイト：<http://www.supaa.com/kaiho/index.html>

■当会へのお問い合わせ先：<http://www.supaa.com/postmail/postmail.html>

(C)信州大学物理同窓会事務局 無断複製・転載を禁ず

